

⑫ 公開特許公報(A)

平3-210997

⑮ Int. Cl.⁵

B 30 B 3/00
B 21 B 27/00
E 04 B 1/86

識別記号

B
B
E

庁内整理番号

7128-4E
8617-4E
7904-2E

⑬ 公開 平成3年(1991)9月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 ロックウール吸音板への凹模様付与装置

⑯ 特 願 平2-5962

⑰ 出 願 平2(1990)1月13日

⑱ 発 明 者 松 岡 八 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
⑲ 発 明 者 大 野 智 廣 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
⑳ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地
㉑ 代 理 人 弁理士 石田 長七 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

ロックウール吸音板への凹模様付与装置

2. 特許請求の範囲

(1) ロックウール吸音板の表面に凹模様を付与するための凹模様付与用ロールにおいて、ロールを軸方向に複数個のロール体に分割し、このロール体にロックウール吸音板に凹模様を付与するための模様付け用突部を形成し、隣り合うロール体の間に模様付け用突部を有しないカラーを介在させて成ることを特徴とするロックウール吸音板への凹模様付与装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ロックウール吸音板の表面に凹模様を付与するためのロックウール吸音板への凹模様付与装置に関する。

〔従来の技術〕

従来からロックウール吸音板1の表面に凹模様2を付与して外観の向上とより一層の吸音性の確

保とを付与するようにすることが行なわれている。

そして、従来にあっては、第7図に示すような長尺のロール3'を回転してロックウール吸音板1の表面に凹模様2を形成し、その後、このロックウール吸音板1を複数に切断して製品としていた。

〔発明が解決しようとする課題〕

ところが、上記のような装置により凹模様2を形成した場合、複数に切断して製品とすると、切断部分である端面に凹模様2の端が露出し、これを施工した場合、第8図に示すように製品であるロックウール吸音板1の側端面の突き合わせ部分(すなわち目地部分)に凹模様2の切断部2aが位置して見苦しいという問題がある。

本発明は上記の従来例の問題点に鑑みて発明したものであって、その目的とするところはロックウール板の製品の端に凹模様が出来ないように凹模様の付与ができ、また、ロックウール板の製品の幅に対応して端に凹模様が形成されないように調整できるロックウール吸音板への凹模様付与装置を提供するにある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明のロックウール吸音板への凹模様付与装置は、ロックウール吸音板1の表面に凹模様2を付与するための凹模様付与用ロールにおいて、ロール3を軸方向に複数のロール体4に分割し、このロール体4にロックウール吸音板1に凹模様2を付与するための模様付け用突部6を形成し、隣り合うロール体4の間に模様付け用突部6を有しないカラー7を介在させて成ることを特徴とするものであって、このような構成を採用することで、上記した従来例の問題点を解決して本発明の目的を達成したものである。

〔作用〕

しかして、ロックウール3によりロックウール吸音板1の表面に模様付け用突部6により凹模様2を付与するのであるが、この場合、ロール体4とロール体4との間のカラー7部分においては凹模様2が付与されることがなく、したがって、この部分で切断して複数のロックウール吸音板1の製品を得ることで、ロックウール吸音板1の端

4のいずれか一方に係合凹部8を設けるとともにいずれか他方に係合突起9を設けて係合凹部8に係合突起9に係合してある。このようにすることで同一の模様のパターンが得られる。カラー7は例えばヒンジ部10により半割り体11を回転自在に枢支したものでカラー7を開いて隣り合うロール体4間にはめ込んでカラー7を閉じることで介在させるものである。そして、ロール軸5に対して移動自在にはめ込んだロール体4はキーのような適宜固定手段により動かないようにするものである。図中12はストッパであってロール軸5に取り付けてある。しかし、上記のような構成のロール3の下方をロックウール吸音板1を通過させて模様付け用突部6によりロックウール吸音板1の表面に凹模様2を付与するものである。この場合、ロール体4間のカラー7部分に対応する部分にはロックウール吸音板1に凹模様2が形成されないものである。そして、上記のようにして凹模様2を付与したロックウール吸音板1は第4図の線イの部分(すなわち凹模様2が形成されな

に凹模様2の切断端が生じないようにできた。そして、各ロール体4の長さを適宜選択することで目的とする幅で且つ表面に凹模様2を付与されたロックウール吸音板1の製品を得ることができ、このロックウール吸音板1の製品には端に凹模様2の切断端が生じなくなった。

〔実施例〕

以下本発明を添付図面に示す実施例に基づいて詳述する。

第1図には本発明の一実施例が示してある。ロール軸5にはロール3が取り付けられてあるが、このロール3は軸方向に複数のロール体4に分割してある。そして各ロール体4の外面にはそれぞれロックウール吸音板1の表面に凹模様2を付与するための模様付け用突部6が形成してある。そして、隣り合うロール体4の間には模様付け用突部6を有しないカラー7が介在してある。ここで、各ロール体4はロール軸5に対して軸方向に移動自在にはめ込んであり、ロール軸5に対して回転方向には動かないようにロール軸5乃至ロール体

かったカラー7に対応する部分)で切断して複数のロックウール吸音板1の製品(例えば天井板)を得るものであり、このロックウール吸音板1の製品を突き合わせ施工しても目地部分には第5図のように凹模様2の切断端部が存在せず、外観がよくなるものである。

ここで、分割した各ロール体4の長さを選択することで(つまり長さの異なる複数の中から適宜の長さのものを選択することで)得ようとする目的の幅のロックウール吸音板1の製品を得ることができる。

第6図には各ロール体4を更に複数の分割ロール素体4aに分割し、各分割ロール素体4a同士を凹凸嵌合して接合するようにしたものである。第6図において13は嵌合凹所、14は嵌合凸所であって、嵌合凹所13と嵌合凸所14とが嵌合するものである。この場合、嵌合凸所14部分にも模様付け用突部6が形成してある。この実施例において中央部の分割ロール素体4aの長さの異なるものを選択して使用することでロール体4の長

さを変えることができる。

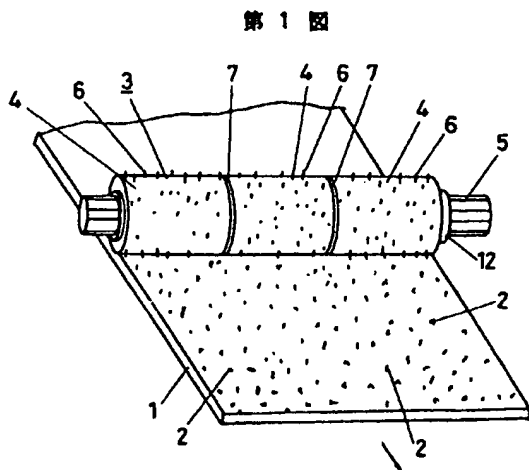
〔発明の効果〕

本発明にあっては、叙述のようにロールを軸方向に複数のロール体に分割し、このロール体にロックワール吸音板に凹模様を付与するための模様付け用突部を形成し、隣り合うロール体の間に模様付け用突部を有しないカラーを介在させてあるので、各ロール体部分においてのみロックワール吸音板に凹模様が付与され、ロール体とロール体との間のカラー部分においては凹模様が付与されることがなく、したがって、凹模様が付与されていない部分で切断して複数のロックワール吸音板の製品を得ることで、ロックワール吸音板の端に凹模様の切断端が生じないようにできるものである。また、各ロール体の長さを適宜選択することで目的とする幅で且つ表面に凹模様を付与されたロックワール吸音板の製品を得ることができ、このロックワール吸音板の製品には端に凹模様の切断端が生じないものである。

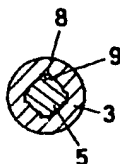
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の斜視図、第2図は同上の断面図、第3図は同上に用いるカラーの開いた状態の正面図、第4図は本発明の装置により得られたロックワール吸音板の切断を説明するための平面図、第5図は同上のロックワール吸音板の製品の施工状態の平面図、第6図は本発明のロール体の他の実施例の斜視図、第7図は従来例の斜視図、第8図は同上により得たロックワール吸音板の製品の施工状態の平面図であって、1はロックワール吸音板、2は凹模様、3はロール、4はロール体、6は模様付け用突部、7はカラーである。

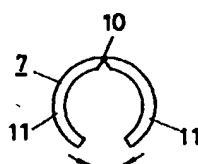
代理人 弁理士 石 田 長 七



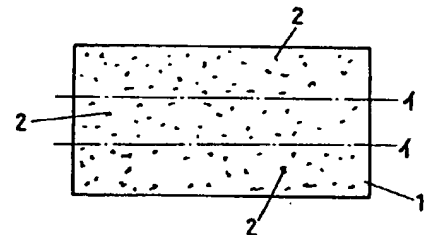
第2図



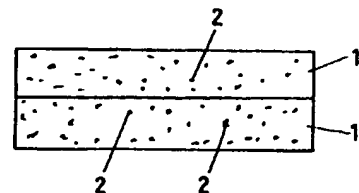
第3図



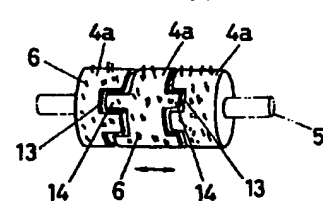
第4図



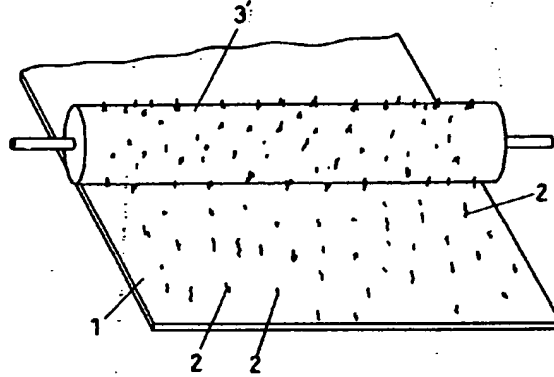
第5図



第6図



第7図



第8図

